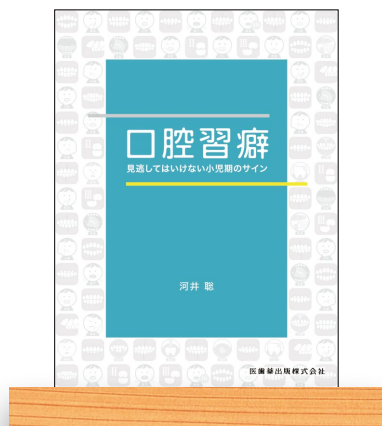


## 500枚以上の豊富な症例写真から “口腔習癖とは何か”がわかる！



### 口腔習癖

見逃してはいけない小児期のサイン

河井 聡 著

A4判変/140頁

定価 5,500円 (本体 5,000円 + 税 10%)

医歯薬出版 (2019年6月)

今村歯科医院 (横浜市)  
評・今村幸恵 (歯科衛生士)



「歯列不正を予防できたら」「口腔習癖を指導したいけれど方法がわからない」と思ったことはありませんか？ でも、歯科衛生士として何から始めたらいいかわからないし、すこしハードルが高いと感じている方も多いのではないのでしょうか。

本書は小児の口腔習癖による歯列の変化、機能訓練による改善の過程が一目瞭然に示されています。口唇、舌、頬からの圧力バランスが乱れてしまう口腔習癖とはどのようなものか。それを整えることの重要性がわかりやすく書かれており、歯科衛生士がどのようにかかわっていいのかを教えてくれる本です。これから口腔習癖の勉強をしてみたいと考えている歯科衛生士に、ぜひ読んでいただきたいです。

本書を読みはじめて気づいたことがあります。

それは、私の診療室においても本書に出てくる症例に似た口腔習癖を多く目にするということです。いままでもこのような患者さんは来院されていたはずですが、こちらが口腔習癖を見つける“眼”をもっていなかったため、残念なことに気づくことができていなかったのではないかと反省させられます。本書に記載されているポイントを着眼点とし見直してみると、爪噛み、物噛み、舌出し、頬づえ、指しゃぶり、<sup>くも</sup>口ポカン、就寝体勢、食事スタイルなどの問題がみえてきました。口腔習癖につながる行動を見逃さず前兆があれば軌道修正し、子どもの発達に合わせた指導が重要になります。その発育の手助けになる方法が具体的かつ明瞭に記載されています。

しかし、いざ臨床で患者さんをみみると実際の患者さんの症例はわかりにくく複雑です。その問題を解決するために本書では、目に見えるわかりやすい歯列、咬合の「形態の問題」(開咬、過蓋咬合、正中のずれ等)と、形態の問題の原因となっている口腔習癖としての「機能の問題」をわかりやく可愛いイラストのアイコンで示されています。このことにより、複雑でわかりづらかった問題を分解、整理して考えられるようになります。私の医院ではアイコンをコピーしてカルテやチャートに貼っています。口腔習癖とその問題点、明確な目標、機能訓練内容を歯科医師、歯科衛生士皆で共有でき、はっきりと認識することができます。本書では実際の症例を写真とアイコンでリンクしてさらに読みやすくなっています。このアイコン化は河井先生のすばらしいアイデアだと思います。

私のこの分野への挑戦はまだ始まったばかりですが、これからも歯科医師と協力して“小児期の見逃してはいけないサイン”を見逃さず、ブラッシング指導同様に子どもの健康な発育の手助けができたと思っています。